

<参加者の声>

越田 専太郎先生（了徳寺大学）

日本体育学会の地域支部制度の廃止に伴い、地方学会はその役割を再考する必要に迫られている。そのような状況の中参加した千葉体育学会であるが、個人的に大学院生を中心とした若手研究者育成の場としての可能性を改めて感じている。少人数での学会であり参加に伴う心理的壁が高くないこと、参加に伴う経済的負担が小さいこと、11月後半から12月前半の開催は大学院1年生にとっては修士論文提出の約1年前にあたることから、自身の研究を進めるための目標としやすいことなど、全国学会にはない利点がある。

特に、例年実施されている大学院生によるワークショップは秀逸の企画であり、私が大学院生であった20年前にもこのような場が提供されていればいぶん勉強になったであろうと思う。今回も大学院生の方々が修士論文を進めていくために有益なものであったと信じたい。さらに、千葉大学のみならず他大学院に所属する若手研究者には是非ご参加いただきたいという気持ちを強くした次第である。